

2014年3月17日発行

二火会たより・18号

日本山岳会 二火会 〒102-0081 代田区四番町 5-4 TEL03-3261-4433

毎日寒くて春がなかなかきませんネ。おかげで、また風邪をひいたようです。みなさんも寒暖の激しい昨今、充分気をつけて下さい。

4月から新しい年度になります。会費納入など、ご協力をお願いします。

また、二火会の総会を5月13日(火)ルームにて開催します。詳細は後日ご連絡致しますがよろしくお願ひ致します。

代表 金井一子

山行報告

1月の山行

- 期 日：2014年1月21日(第三火曜日)晴
- 場 所：神奈川県 石老山→嵐山(405m) 三等三角点
- 参加者：金井一子、織田沢美知子、清水千枝子、植村澄江、渡辺温子、松島岳生、下野武司、佐藤登代子(係り)

平成26年の初歩きの山は寒さが殊の外厳しいので凍結を心配して、当日参加者と相談して、嵐山(405m)に山を変更させていただきました。

嵐山は相模湖駅から登山口までタクシーで行き、ゆっくり歩いて頂上に10:15に到着。頂上からは相模湖を一望できる素晴らしい景観でした。

又温かいトン汁パーティーするにはもってこいのテーブルがあり、皆でホットな鍋を囲んで、わいわいがやがや賑やかにトン汁をいただきました。

身も心も温まり、ほっとしている時に織田沢さんが急に気分が悪くなり、少し横になって休みました。休んでいる間に私たちは頂上に祭ってある「産霊宮水上神社」にお参りをす、相模湖の水源は富士山中湖で、桂川になり、相模川、馬入川となって海に注いでいます。この水を堰止めて発電用のダムをつくり、関東一円を照らすと共に、飲料水等にも役にたっています。

この山は京都の嵐山に似ていることから嵐山の名前が付いたようです。

下りは織田沢さん清水さん松島さんの三人は大事をとって、登った道を下り、残りの人達

はプレジャーフォレスト方面に下る。

約2時間の下山中、橋が五ヶ所もあり、又オレンジ色の実をいっぱいつけた「いいぎり」の樹が随所に見られ楽しませてくれた。道はかなり急坂で、下ったり、登ったり、登りの道のように簡単に下れませんが、竹林あり、相模湖が見える眺望のいい場所があり、楽しい陽だまり山行でした。バス停に14時10分到着。お疲れさまでした。

バスで相模湖駅まで戻り、反省会はお汁粉、ココア、チョコパフエ等己々頂き、疲れをとって楽しく岐路につきました。
(記：佐藤登代子)



嵐山山頂にて



トン汁パーティー

2月の山行

■期 日：2014年2月18日（第三火曜日）晴

■場 所：弘法山

■参加者：植村澄江、内田敏子、織田沢美知子、大船武彦、児嶋和夫、佐藤登代子、
佐野加代子、清水千枝子、下野武司、渡辺温子、金井一子（係り）

秦野駅9時30分、11名みんな元気に集合。「お天気になってよかったネ」と話ながら登山口へ。最初の浅間山で日が差してきて、みんなの気持ちもどンドン上昇し、歌もたくさん出てくる。次の権現山は桜の木がいっぱい満開になったらスゴイネェー！という感じ。トイレも要所々々に設置され、桜並木の馬車道を通り弘法山からは長い山道となり1時間以上休みなしに歩かせてしまっておめんなさい。吾妻山で最後の大騒ぎをして一投足で鶴巻温泉へ、そして打ち上げ。とても楽しい一日でした。



浅間山山頂



富士山？

3月の山行

■期 日：2014年3月10日（月）

■場 所：矢川～青柳～谷保～城山

■参加者；金井一子、植村澄江、佐野加代子、佐藤登代子、茂木洋子、松沢君子、
清水千枝子、渡部温子、須藤節子、松島岳生、下野武司（夫）下野（妻）、
大船武彦（係り）

9:30 矢川駅集合。矢川緑地 五智不動、青柳稻荷、ママ下湧水 オンだし、国立郷土館、
国立古民家《昼食》 谷保城山保全地域 谷保天神 谷保 [解散] 14:30

残念ながら、谷保城山のニリンソウにはまだ早く、わずかに谷保天神の梅林で、よいお花
見ができた。矢川から続く青柳面を開発して、谷保の人たちが、府中用水や、湧水を使っ
て、どのような生活をしてきたのか、が少しご説明できたような気がする。（大船記）



谷保の天満宮

場所	時刻	要旨
矢川駅	09:30	集合 武蔵野の浸蝕面
矢川緑地	09:40	立川断層、残堀川、矢川
青柳神社	10:00	玉川の流路変更と青柳村の成立
滝乃川学園下	10:30	多摩の礫層、真下湧水 府中用水と沖積地、
国立文化郷土館	10:50	月曜日休館
国立古民家	12:00	多摩の暮らし、昼食
谷保・城山保全地域	13:00	多摩の自然
谷保天神	14:00	梅の花見
谷保駅	15:00	解散



水と人間の暮らし＝立川断層と残堀川

矢川は、立川断層の上（弱線）に成立している。残堀川（立川断層）とは、姉妹ということになる。

一方、古来より、人は、水辺に住んできた。多摩川沿いには、縄文遺跡が多く見つかっている。飲み水のみならず、生活用水は、どうしても必要なので、その他の事柄に先んじて、考えられたことであった。矢川は、湧水なので、水質が良く、人々が集まった。

東京西部の主要な浸蝕面は、つぎの3つである。

基本的に、この境（崖線）の下では、湧水がある。

武蔵野面	武蔵野で一番高いところにある。 玉川上水はこの上を通っている。	500,000年前、海中で堆積
立川面	立川面と武蔵野面を隔てるのが、国分寺崖線である	25,000年前、立川ローム層が載っている。
青柳面	拝島面	10,000年前

谷保城山

中世の砦跡。私は、fort YAH00 と呼んでいる。中世この地に勢力を張った三田氏（津戸氏）一族の砦である。両氏とも谷保天満宮の菅原氏とは、関連がある（血縁、通婚など）と考えられている。

[東京都自然保護課のHP から引用]

城山(じょうやま)とは都史跡三田氏館跡の通称である。別に三田城、谷保城とも呼ばれているが、三田氏所蔵の古図によれば、万治版(万治11年、1659年)に「津田三郎為守城山」と、また天保版(天保11年、1840年)に「津田三郎為守ノ城跡故ニ名テ城山ト云ヒ来ル」と記されている。

津田三郎為守は菅原道真の子孫と伝えられ、石橋山合戦(1180年)以来、源頼朝に属して多くの武功をあげ、仁和4年(1243年)没した。

天保版は三田氏の祖先、三田林内の筆になるものであることから、城山は津田氏の館跡であり、鎌倉初期のものと考えられている。

野川と並んで、東京西部に残された数少ない自然である。

段丘上部には、イヌシデが見られる。イヌシデは、多摩川に沿った段丘上部で、普遍的に見られる植生です。